

# 八幡平市立松野小学校 第6学年 国語科学習指導案

日時 平成25年11月13日(水) 5校時  
対象 男13名 女12名 計25名  
指導者 横澤 圭一

## 1 単元名(教材名)

作品の世界を深く味わおう(やまなし) 光村図書 p.102~p112.  
(イーハトーヴの夢) p.113~p128.

### 言語活動

作品に表れている作者の思いをまとめることを主な言語活動とする。

## 2 単元について

### (1) 児童について

児童は、1学期、「カレーライス」を通して、内容と共に優れた文章表現上の特徴を備えていることを学んだ。その学習活動を想起し、本単元で、文章表現、文学作品の多様性、豊かさに気づかせていきたい。そして、今までの学習で身に付けてきた読みの力を生かしたり、それらの作品と比べたりしながら、「やまなし」を読み深めていくことを期待したい。

国語の学習では、自分の考えをまとめることができるようになってきている。しかし、語彙が少なく、自分の考えを發表することには、抵抗を感じている児童が多い。そこで、自分の考えに自信を持たせ、相手に伝えることでより豊かな読み取りができることに気づかせていきたい。

### (2) 主たる指導事項

小学校学習指導要領国語科第5学年及び第6学年の「読むこと」における目標は、「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」である。

本単元は、宮沢賢治の物語「やまなし」と、資料として添えられた宮沢賢治の伝記「イーハトーヴの夢」から成っている。

「やまなし」は、比喩表現や擬声語・擬態語など、宮沢賢治の独特な表現が駆使された、象徴的で深い思想性を持つ作品である。賢治の作品の中には、ストーリーの展開のおもしろさが優れて特徴的なものもあるが、あえてその要素を退けることで、豊かな表現の一つ一つとより丁寧に向き合う学習が実現すると考える。一つの言葉、連なった言葉たちが持つ響きやリズム、イメージを大切に読み味わわせたい。

「イーハトーヴの夢」は、宮沢賢治の世界に深く関わる筆者が、小学生向けに書き下ろした評伝である。この文章を読むことで、児童は、広い知識と高い理想を持つ賢治の生き方を知り、賢治の書いた作品への興味も深まると思われる。そして、確固たる理想の基に、切実に生きることへの問いかけを繰り返したことが生み出す迫真的な力に触れることができると考える。

「やまなし」から感じ取ったことと、「イーハトーヴの夢」で紹介される作者宮沢賢治の思いや考え方を重ね合わせて考えさせたい。

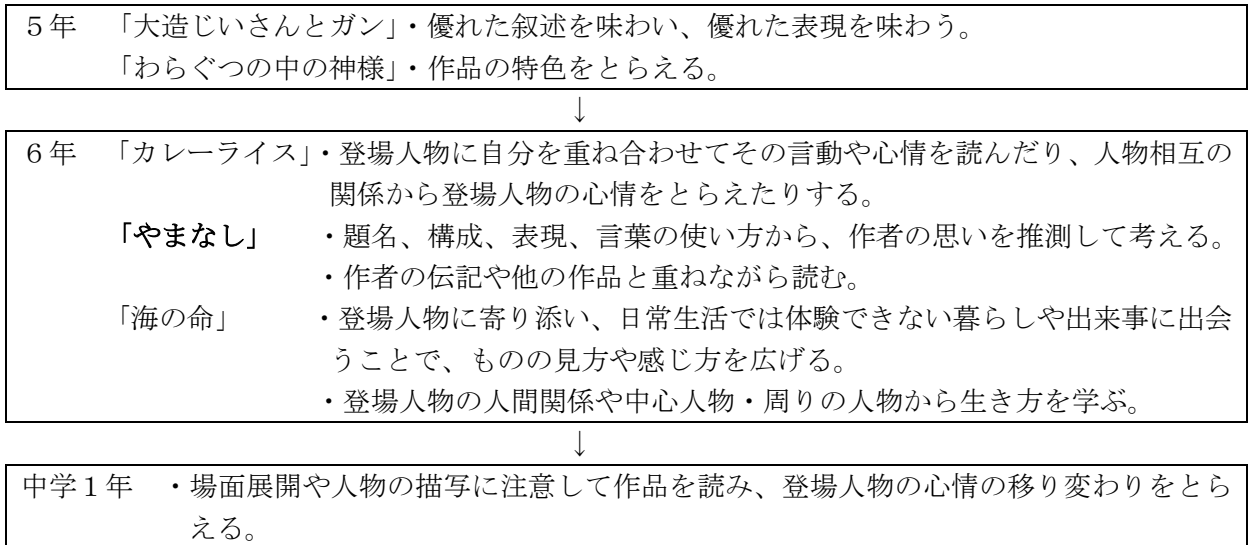
### (3) 指導に当たって

主教材「やまなし」は、比喩的な表現を手がかりにして、情景を想像させる。そして、「五月」と「十二月」を対比して感じたことを基に、作者が伝えたかったことや優れた表現について話し合う。

次に、自分が読んだ宮沢賢治の他の作品の中に、どんな表現から作者のどんな考え方が表現されていたかと印象に残った表現について交流させる。

最後に、「イーハトーヴの夢」を読み、作者の生き方や考え方に触れた後、改めて「やまなし」や自分が読んだ宮沢賢治の作品に表れている作者の思いを考えさせる。

#### (4) 単元の位置づけ



### 3 単元の目標

#### (1) 国語への関心・意欲・態度

- ・情景や言葉の使い方に興味をもち、宮沢賢治の作品や生き方を知ろうとする。

#### (2) 読むこと

- ・場面についての描写を捉え、作品の中で使われている表現を味わいながら、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。(1) エ

- ・目的に応じて、複数の本や文章を比べて読み、効果的な読み方を工夫することができる。

(1)イ・オ・カ

#### (3) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・作品の中で使われている表現を味わい、語感や言葉の使い方に関心をもつことができる。

(1)イ(カ)(キ)(ケ)

### 4 単元の評価規準 (B)

#### (1) 国語への関心・意欲・態度

- ・物語の情景や言葉の使い方に興味をもったり、作者の考え方や生き方を知ったりしようとしている。

#### (2) 読む能力

- ・場面の様子を捉えて、優れた叙述に気がついている。
- ・2つの場面を比べて読むことで、作品の特徴や作者の思いを捉えている。
- ・複数の本や比べて読んで、作者のものの見方や考え方について考えている。
- ・本を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを深めている。

#### (3) 言語についての知識・理解・技能

- ・物語の構成について意識をもっている。
- ・物語を読んで、語感や言葉の使い方に関する感覚について関心をもっている。
- ・比喩などの表現上の特色について意識している。

5 学習指導計画（読むこと 10 時間 全 10 時間）

段階	学習課題	学習活動（時間）	評価規準（B）
つかむ	1 作者の生き方や考え方と重ねて、作品を読むことの大切さを知ろう。	・「作者の生き方や考え方と重ねて、作品を読む。」とはどういうことを考え、単元の学習計画を立てる。（1時間）	【関】宮沢賢治の複数の作品を進んで読み広げようとしている。（観察）
	2 「やまなし」を読んだ感想をまとめよう。	・「やまなし」の題名と冒頭の一文から想像したことを発表し、全文を音読する。（1時間）	【読エ】初発の感想を書いて、交流している。（ノート・話し合い）
とらえる	3 「五月」の谷川の情景を想像しよう。	・「五月」の谷川の様子を読む。（1時間）	【読エ】擬声語や擬態語、比喩表現などに着目し、その役割や効果に気づき、情景を読み取ることができる。（発言・ノート）
	4 「十二月」の谷川の情景を想像しよう。	・「十二月」の谷川の様子を読む。（1時間）	
	5 「五月」と「十二月」のちがいについて、感じたことを話し合おう。	・「五月」と「十二月」の違いについて、感じたことを交流する。（1時間）	【読エ】「五月」と「十二月」を読んで、感じたことや考えたことをノートにまとめたり、交流したりしている。（発言・ノート）
ふかめる	6 宮沢賢治の生き方や考えの基になった出来事や作品が生まれた背景などをまとめよう。	・「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考えの基になった出来事や作品が生まれた背景などをまとめる。（1時間）	【関】宮沢賢治の生き方に関心を持ち、年表を作ろうとしている。（ノート）
	7 賢治の生き方や考え方について話し合おう。	・「イーハトーヴの夢」で読み取ったことを基に、作者の生涯や、ものの考え方について話し合う。（1時間）	【読オ】賢治の生き方や考え方に感想をもっている。（発言・ノート）
	8 宮沢賢治は、なぜ「やまなし」という題名をつけたのだろうか。	・作者がなぜ「やまなし」という題名をつけたのかについて考えをまとめる。（本時 1時間）	【読エ】作者がなぜ「やまなし」という題名をつけたのかについて考えをまとめることができる。（発言・ノート）
	9 宮沢賢治の本を紹介し合い、感想を交流しよう。	・「やまなし」「イーハトーヴの夢」を読んで考えてきたことと賢治の他の作品を読んで感じたことを関連付けて話し合う。（2時間）	【読カ】複数の作品を読んで、その特徴や作者の意図をとらえている。（発言・ノート）

## 5 本時の指導

### (1) ねらい

「イーハトーヴの夢」の中でとらえた賢治の生き方や理想を「やまなし」の中に見いだし、自分なりの考えをもつことができる。

### (2) 展開

段階	学 習 活 動	時 間	指導上の留意点・評価
つかむ	1 前時までの単元の学習を振り返り、本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">宮沢賢治が「やまなし」にこめた思いを考えよう。</div> 2 本時の学習の流れを確認する。 ◎ 「やまなし」が題名になっていること ・ 「イーハトーヴの夢」で読み取った賢治の生き方や理想 ・ 「五月」と「十二月」を比べて感じたこと、分かったこと	5分	・ 掲示物を活用する。
ふかめる	3 課題を解決する。 (1) 「やまなし」に表れている宮沢賢治の思いを考える。  (2) 自分の考えを発表し合う。 ・ 小グループで交流した後、全体で話し合う。 ・ 友達の発表を聞いて、似た考えだったところ、違う考えだったところなどを伝え合う。	35分	・ 「イーハトーヴの夢」で読み取った賢治の生き方や理想と結び付けて考えさせる。 ・ どんなどころから賢治の思いが分かったかも考えさせる。 ◎自分の考えをまとめている。 (ノート) <工夫②> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">考えを表現させる指導の工夫</div> ・ 自分の考えとの類似点や相違点について明らかにしながら聞き、考えを発表できるようにする。
まとめる	4 本単元の学習を振り返り、学習のまとめをする。 ・ 「やまなし」を読みながら、作者の生き方やものの考え方を紹介した「イーハトーヴの夢」を重ねて読んできた学習を通して、どんなことを感じたり学んだりしたかまとめる。 5 次時の学習の見通しをもつ。	5分	・ 本単元の学習の成果について触れる。 ・ 自分の読みの深まりに気づき、学習の満足感や充足感を感じられるとよい。 ・ 次時は、自分が読んだ作品の中に、賢治のどんな考え方が表現されていたかまとめることを確認する。

### (3) 具体の評価規準

A：作者が題名を「やまなし」としたことや「イーハトーヴの夢」や「やまなし」を結び付けて、自分の考えをまとめている。

B：作者が題名を「やまなし」としたことについて、自分の考えをまとめている。

努力を要すると判断された児童への具体的な手立て

「イーハトーヴの夢」で読み取った宮沢賢治の生き方や理想から考えて、賢治は「五月」と「十二月」のどちらをより大事に思っていたかを考えさせる。